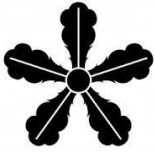


郷 土 の か ぜ

仙 台 市 民 図 書 館 郷 土 資 料 コー ナー か ら



なすな
齊 紋
伊 達 家

『 新米担当者のレファレンス流儀 』

平成 30 年度郷土資料担当 山口直子

「読者の時間を節約せよ」

ランガナタン図書館学五原則*のひとつです。

私たち司書は図書館学でこんな言葉を学びます。

そして、レファレンス（調べもの）の実習においては「ありません」という言葉は禁じられた呪文のように軽々しく口にしてはいけないと教えられるのです。

例え資料がなくともお客様の道を絶たぬようなんらかの行き先を案内するようにと。

司書の勉強を始めたころに学んだこの二つの言葉が今も私の指針となっています。

そんな私が郷土資料担当となってから早二年が経とうとしています。

担当となる以前、郷土史はおろか歴史や地理に全く関心のない人間でありました。そんな私でありますから、「江戸時代の仙台の地図で〇〇さん家はあるのかい？」という問い合わせに対しても、まさか見つからないでしょう、という気持ちでおりました。しかし資料を探すと見つかるのです。

郷土史料というのは現代の資料と違い、本の内容がデータ化されていないものが多いため、探し当てるのに時間がかかってしまうことが多いように感じます。その中で、読者の時間を節約せねば、というせめぎあいを感じつつも、しっかりと向き合っ探すとなんらかの道筋が見えてくるものだなと実感しております。

そして「史料」のすごさを日々思い知らされ、知れば知るほど「ありません」という言葉はますます禁じられた呪文になっていくのです。

そんな二年間を過ごし、仙台の街中でふっと青葉城跡の方面を見上げると、青葉山に向けてずっと続くまっすぐな道が過去と現在とが重なって見える瞬間があります。この、時間軸が立体になるような感覚は、郷土史を学ぶ醍醐味なのではないでしょうか？

まだまだ調べものに関しても、郷土史に関しても入門したばかりの新米担当者ではありますが、少しでもお役に立てるよう、冒頭で上げた二つの言葉を胸に日々精進してまいります。

なにかお調べものがある際には、図書館員を育てると思ってレファレンスカウンターまでぜひ足をお運びください。

もちろん、ふとした疑問や郷土史に関わらない調べものもお待ちしております。

*図書館学五原則：1931年にインドの図書館学者ランガナタンが、図書館のあるべき姿を示す普遍的原理として示したもの。

■ 図書館利用者の方々からは、実に様々なレファレンスが寄せられます。すんなりと簡単に答えが出てくるものは良いのですが、郷土担当者が一丸となって取り組む必要のあるレファレンスもあります。一つのレファレンスに対して多くの関連資料を見つけ出し、その中から的確な回答を導き出していくのが我々図書館員の仕事です。ご利用の皆さまには調べたい項目ありましたら「なるべく多くのキーワード」を持ってきていただくと大変助かります。

地図あれこれ

郷土資料担当：小石川正弘

新年度になってゼンリン住宅地図の閲覧が多くなっています。一般の方々であれば、通勤経路を調べるために見ていく方も多く見受けられます。自宅から最寄りの駅まで、それから交通用具を使って勤務先の駅までとか・・・でも、住宅地図では詳しすぎます。それには、4Fカウンターバックに用意してあります「仙台市区分地図 縮尺 1/10,000」がおすすめです。

ある時「学区の地図を作りたいので、住宅地図を見せてください」とありました。マンション名や個人宅名が入っているものとなればゼンリン住宅地図なので必要な区をお出ししてあげました。しばらくすると頁をめくる手が止まっていたのです。お声がけしましたら「学区の地図を作るって大変ですね」とのこと。ゼンリン住宅地図の縮尺は 1/1500 ですからかなりの枚数になることが分かったようです。その後、どうしたかはわかりません。

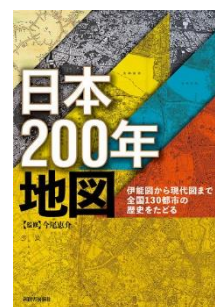
一番古いゼンリン住宅地図を見たいとの希望も多くあります。市民図書館で保有している一番古いゼンリン住宅地図は、1974年発行のもので南部と北部に分かれています。ところが「もっと古い住宅地図はないのですか」との質問もあります。ゼンリンが住宅地図を初めて発行したのは1952年からのようです。市民図書館が開館したのは1962年ですが、その12年後からのゼンリン住宅地図は資料として保存しています。それより前の住宅地図となると「1961年版 仙台精密案内地誌」と「1964年版 仙台市大鑑」の二種類だけ。両資料とも企業名や個人名が手書きで書いてあり、さぞ担当者は大変だったと想像されます。両資料とも使用頻度は高いので、原本は地下書庫に保管し、そのデータをデジタル化しプリントアウトしたものをクリアファイルに入れ見えています。

最近購入した地図の新刊書をご紹介します。私が初めてこの資料を手にしたとき「ついにやってくれましたね」と思ってしまいました。それは、

『日本200年地図』 今尾恵介 監修 河出書房新社 2018年10月発行 R291/= 本体価格 9,200円

表紙カバーには「伊能図から現代図まで全国130都市の歴史をたどる」とありました。130都市の町の変遷の様子がこの1冊でわかるというものです。それでは仙台の様子をご紹介します。

仙台：文政4（1821年）の伊能図、明治38（1905年）、昭和3～5（1928～1930年）、昭和39（1964年）、平成30（2018年）の5枚。仙台東部：昭和3～5（1928～1930年）、昭和39（1964年）、平成30（2018年）の3枚です。地図を眺めるだけで街の変化がよくわかりますし、特に、私は河川や道路、鉄道に注目して見えています。右下には解説文もありますから地図と比較しながら読んでいくと興味は尽きないことでしょう。



ぜひ、日本全国130都市の200年にわたる歴史の流れを楽しんでください。

■ 編集後記

5月から元号が「令和」に代わります。発表の時にはワクワク、ビックリという感じでしたが、徐々に素晴らしい元号だなと思うようになりました。その確認作業というわけではありませんが、4月1日発行の官報(号外)の政令を見ると「令和」が明記され、5月の新元号施行が楽しみになりました。そして、私自身昭和・平成・令和と三つの元号の中で生きるとは思ってもみませんでした。

発行：仙台市民図書館 郷土資料コーナー (担当：小石川)
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL022-261-1585